

家族だからこそ…



ほうっておいてほしい
干渉しないでほしい
黙っていてほしい

その気持ち、わかります。

家の人がとてもうるさく感じられ、意味もなく反抗したくなるその気持ち。だって、これはどんな大人もみんな経験してきたことだから。

親の言うことは聞きなさい、口ごたえはやめなさい、素直になりなさい…
—そんなことは言いません。

でも、家族のだれもがあなたを愛し

支えようとしていることにも気づいてほしい。

やがて、いまの時間を取り返すことのできなくなるずっと先になって
だれでもみんな心で思う。——「ごめんね、あのころ。」



家庭は、一方では人間を産み育てるところ
疲れた自分を癒す、安らぎの場。

しかし、もう一方では、つながりの深さゆえに
人を苦しめ、ゆがめる場ともなる。

他人だったら、そんなことはないのに

家族ゆえに

家族だからこそ

思いがあり、願いがあり、愛があるから

そこに「ゆがみ」が生じる。

他人だったら、絶対そんなことはないのに…

孟子は

君子の第一の楽しみとして

——父と母がともに健在で

兄弟もつつがなく過ごしている

ことをあげている。



でも、これは、だれにとっても
いつまでも続くものではない。
早いか遅いかはあったとしても…
居ることがあたりまえではない家族。
いま、もう一度
その思い、その願い
それぞれの愛をしっかりと受け止めよう。
そして、自分からも愛を、注いでみよう。

いつかはあなたも新たな家庭をつくる

どんな一日であったとしても、あなたが帰っていくところ。
そこは空間としての単なる「すみか」だと
思っているかもしれないけれど
あなたにとってかけがえのないところであるはず。
ここが心地よければ
よりよい生活が送れるに違いない。
自分自身と家族とのいまの在り方をふまえながら
いつか、あなたが築く家庭像をイメージしてみよう。



あなたのイメージ

どんな雰囲気の家族が理想か？

年 月 日

子どもにはどうあってもらいたい？

年 月 日

家族の会話はどうしたい？

年 月 日

家族へのメッセージ